

# たかしょう

## 高倉タイムで非認知力を育てる

6月10日に、「高倉タイム」を行いました。高倉タイムは、異学年集団による「サークル対話」と「遊び」を行う今年度から新しく始めた月1回の取り組みです。

最近の子どもは、昔の子に比べて、思い通りにいかないとすぐかんしゃくを起こす、順番を待てない、うまくいかないとすぐあきらめるなどの傾向があります。また、「何が正解か」を気にしすぎるあまり、「自分が何をしたいのか」という主体性が弱くなっている、といった声も聞かれます。

このような生きていくのに必要な心の力のことを「非認知力」と言います。対して「認知力」とは、テストで点数化できる学力や能力のことです。非認知力は認知力よりも大人になってからの社会的成功、幸福度、健康状態にも強く関連することが最近の研究で明らかにされ、注目を集めています。

昔はゲームやスマホがなかったので、子どもたちの遊びは近所の子らとの集団遊びが中心でした。はんかち落とし、だるまさんがころんだ(坊さんが尻をこいた)、たんてい、缶蹴り、どろだんご、かくれんぼ、べったん、ゴムとび…。

ケンカになっても自分たちで話し合って解決することで「違う意見の人と折り合いをつける力」が育ちました。今日はどんな遊びをするのかを話し合って「合意をつくる力」も育ちます。相手の言葉や表情、態度などから「人の気持ちを推察する力」も身につきました。友だちとの遊びでは、ルールを工夫しないと全員が楽しく遊べません。誰かが小さい弟や妹を連れてきたら、その子を「ごまめ」にするなどルールを工夫しないと遊びが成立しなくなります。このようにして子どもたちは遊びながら自然に非認知力を育むことができていました。それに、昔はいい意味で大人が子どもを放ったらかしにしてくれていました。また、「ぼーっとして何もしない日」など、豊かでたくさん時間がありました。

しかし便利さや経済性、即時性を追求した社会になり、子どもがその犠牲になっているように感じます。子どもが楽しく遊ぶ時間も空間も少なくなっていました。

だからこそ、学校が時間割の中に意図的に「非認知力」を育てる取り組みを入れていかなければならない時代なのだと思います。なぜなら非認知力は、「遊び」や「おしゃべり」の中で後天的に伸びていく力だからです。



こんな意図で、高倉タイムをスタートさせました。もともとあるキッズファミリー班を

利用します。1～3年生のジュニア班と4～6年生のシニア班に分かれて、なかよし学級やコネクトルームの児童も全員参加できました。7～8人の各班で友だちとおしゃべりを楽しみます。これを「サークル対話」と言います。この日の話題は、「好きな〇〇を伝え合う」でした。好きな教科やスポーツなど、友だちどうして話し合っているうちにどんどん笑顔が増えていきます。「何で〇〇が好きなん?」「それはね…」と対話もはずみます。教職員の間では、「3年生がファシリテーター(対話をすすめるリーダー)するのは難しいのではないか」との予想がありましたが、意外なことに3年生が1・2年生をリードして、質問を振ったり、意見が言えない子をフォローしたりと期待以上の姿を見せてくれました。



サークル対話終了後は、みんなで何の遊びをするかを決めて思い切り遊びました。写真は「ハンカチ落とし」と「7ならべ」です。教員は見

守りに徹し、できるだけ口出ししません。つい先回りして「～だよ」「～はあかん」と言いたくなりますが、そこをぐっとこらえて子どもたちに任せます。

人間が幸せを感じる第1位は健康、第2位は人間関係だそうです。そして第3位が「自己決定」です。



高倉タイムを通じて子どもに「自己決定」の機会を多く保障し、「失敗しない、失敗させない」ではなく、「失敗しても笑われない、失敗から学ぶ」ことができる学校にしていきたいと思います。